報道関係各位

2026年11月19日

社会を変える先端技術の「次の10年」を議論
『MITテクノロジーレビュー［日本版］』10周年記念カンファレンス
2027年1月21日開催・来場申込を開始

AI/ロボット・エネルギー・人間拡張・宇宙のこれからをテーマに
PFN 岡野原大輔氏、江守正多氏ら各領域のトップ研究者・起業家が登壇

株式会社角川アスキー総合研究所（本社：東京都文京区、代表取締役社長：垣貫真和）が運営する会員制 Web メディア『MIT テクノロジーレビュー［日本版］』は、創刊 10 周年記念カンファレンス『Future of Society Conference 2027』の開催日を 2027 年 1 月 21 日（木）に決定し、来場申込の受け付けを開始しました。会場は東京・虎ノ門の TOKYO NODE HALL です。

「次の 10 年を形作るテクノロジー」をテーマに、岡野原大輔氏、江守正多氏、玉城絵美氏らが登壇予定です。先端技術の進展が、これからの事業や社会に何をもたらすのかを議論し、参加者が自らの戦略や取り組みを考えるための視点を共有します。

『Future of Society Conference 2027』公式サイト
https://events.technologyreview.jp/fsc2027/



■トップランナーとの対話で考える「次の10年」の行動指針

『MITテクノロジーレビュー［日本版］』の創刊から10年。先端テクノロジーは、企業の競争環境や働き方、暮らしに変化をもたらしてきました。これからの10年を見据えるには、技術の動向を理解するとともに、その実現性や事業への影響を見極め、自社の戦略にどう組み込むかを考える必要があります。

『MITテクノロジーレビュー［日本版］』は、専門記者・編集者による取材と検証を通じ、技術の仕組みから社会への影響までを伝えてきました。創刊10周年を機に掲げた「好奇心が、判断力になる。」には、技術への関心を、経営や事業の意思決定を支える力につなげたいという思いを込めています。

本カンファレンスは、この考え方を対話と議論の場で実践する取り組みです。各分野の最前線で活躍する研究者・起業家・経営者が、技術の可能性と課題を掘り下げ、次の10年の変化を展望。参加者が自社の戦略や取り組みを見つめ直し、次の行動を考えるための視点を届けます。

■次の10年を形作る6つのキー技術から議論（セッション別五十音順）

キーノート：AIは、次に何を発見するのかー計算の10年から発見の10年へ

・岡野原大輔氏（Preferred Networks共同創業者 代表取締役社長）

＜概要＞この10年、計算資源は指数的に伸び続け、生成AIは実装フェーズへと至りました。次の10年でAIは何を発見するのか。著書『ヒトとAI』の議論も踏まえて、日本を代表するAI研究者であり、ユニコーン企業の経営者である岡野原氏に見立てをお話いただきます。

キーセッション：2036年の当たり前

・岡野原大輔氏（Preferred Networks共同創業者 代表取締役社長）
・江守正多氏（東京大学未来ビジョン研究センター教授）

＜概要＞この10年のテクノロジーの変化を振り返り、次の10年に何が社会の前提となるのかを考えます。

気候テックは死んだのか

・高瀬香絵氏（自然エネルギー財団シニアマネージャー）
・田中加奈子氏（アセットマネジメントOne シニア・サステナビリティ・サイエンティスト）
・モデレーター 本橋恵一氏

＜概要＞投資・地政学・技術の視点から、気候テックを取り巻く環境と、逆風の中での変化を検証します。

人間の拡張は、どこまで来たのか

早野元詞氏（ASAGI Labs代表理事／東京理科大学准教授）
柳澤琢史氏（大阪大学大学院医学系研究科教授）
玉城絵美氏（H2L CEO／慶應義塾大学SDM教授）
モデレーター 杉田祐輔氏

＜概要＞抗老化や身体拡張などの研究・事業の進展を踏まえ、人間の可能性を考えます。

宇宙は、いつインフラになるのか

・小松大実氏（Space Compass代表取締役Co-CEO）
・袴田武史氏（ispace代表取締役CEO & Founder）
・永田 晴紀氏（北海道大学大学院工学研究院 教授）
・モデレーター 城戸彩乃氏

＜概要＞宇宙が日常的に使うインフラとなるための条件を、事業・衛星・探査の視点から検討します。

※「2036年の当たり前」「気候テックは死んだのか」は、追加の登壇者を調整中です。
※追加情報は公式サイトで順次発表します。登壇者・セッション名・時間などは変更となる場合があります。


岡野原 大輔氏


江守 正多氏


高瀬 香絵氏


田中 加奈子氏


早野 元詞氏


柳澤 琢史氏


玉城 絵美氏


小松 大実氏


袴田 武史氏


永田 晴紀氏

■若きイノベーターが集う『Innovators Under 35 Japan Summit』を同会場で開催

カンファレンスに続いて、テクノロジーで世界の課題に挑む35歳未満のイノベーターを選出するアワード『Innovators Under 35 Japan』2026年度の受賞者を迎える『Innovators Under 35 Japan Summit』を同会場で開催。次の10年を切り開く研究者・起業家の取り組みに触れる機会を設けます。

※Innovators Under 35 Japan 公式サイト：https://techreviewjp.com/iu35/2026/

■ネットワーキングパーティも実施

カンファレンスおよび『Innovators Under 35 Japan Summit』終了後に、参加者同士の交流を目的とした「10th Anniversary Party」をTOKYO NODE CAFE（同タワー8F）で開催します。

※参加にはパーティー付きチケットの申し込みが必要です。

■10周年記念特別号を配布予定

この10年の重要技術と次の10年の論点をまとめた、3,000部限定の10周年記念特別号も制作。カンファレンス来場者や希望する有料会員などに配布する予定です。

■開催概要

名称：Future of Society Conference 2027 × Innovators Under 35 Japan Summit
開催日：2027年1月21日（木）
時間：カンファレンス 13:00〜18:05（12:30開場）／IU35 Japan Summit 18:20〜19:10
会場：TOKYO NODE HALL（東京都港区虎ノ門2-6-2 虎ノ門ヒルズ ステーションタワー46階）
主催：MITテクノロジーレビュー［日本版］（株式会社角川アスキー総合研究所）
協賛：TOKYO NODE / 森ビル株式会社
後援：一般社団法人AIロボット協会
参加料金（税込）：

カンファレンスのみ

・早割：2,000円、一般：3,000円、学割：1,000円
・有料会員：無料（枚数限定）

カンファレンス＋パーティー

・早割：9,000円、一般：10,000円、・学割：8,000円
・有料会員：7,000円（枚数限定）

※いずれのチケットも『Innovators Under 35 Japan Summit』に参加できます。
※本イベントの詳細・申し込み方法は公式サイトをご覧ください

『Future of Society Conference 2027』公式サイト

https://events.technologyreview.jp/fsc2027/

■継続的な情報収集を支える『MITテクノロジーレビュー［日本版］』会員プラン

技術や社会の変化に応じて、事業や研究開発の判断材料も更新していく必要があります。『MITテクノロジーレビュー［日本版］』は、日々の取材記事や分野を横断する分析を通じ、会場で得た論点をさらに掘り下げ、継続して考えるための情報を届けます。

有料会員「Insider Online」は、全記事・ニュースアーカイブ、テーマ別のeムック、過去イベントの動画（一部除く）などを利用できます。本カンファレンスでは、有料会員向けの無料チケットと、7,000円のパーティー付きチケットを用意しました（いずれも枚数限定）。

有料会員（ご購読）プランの詳細
https://www.technologyreview.jp/insider/pricing/

無料会員登録（会員向け記事（有料会員限定を除く）の閲覧、ニュースレター配信）
https://www.technologyreview.jp/insider/profile/

会員制Webメディア『MITテクノロジーレビュー[日本版]』公式サイト
https://www.technologyreview.jp/

■『MITテクノロジーレビュー』概要と読者層について

『MITテクノロジーレビュー（MIT Technology Review）』は、1899年に米国マサチューセッツ工科大学によって創設された、世界で最も歴史のあるテクノロジー誌です。米国版の読者層はその8割超がテクノロジー部門の責任者であり、6割が経営層です。

日本版は、米Technology Review Inc.とのライセンス契約のもと、角川アスキー総合研究所が2016年から会員制Webメディアとして運営しています。日本版の会員も、従業員数1000人超の大企業の経営・管理職など意思決定層が多く、新規事業やサービス開発のヒント、未来予測の情報源として活用されています。

本件についての企業・法人のお客様からのお問い合わせ

角川アスキー総合研究所 MITテクノロジーレビュー メディア担当
mediarelations@technologyreview.jp

■株式会社角川アスキー総合研究所について

角川アスキー総合研究所は、メディア運営を通じて蓄積した各分野の専門知見、企画設計力、情報発信力、専門家・事業者とのネットワークを活用し、企業・自治体・官公庁などのお客様が抱える課題の解決を支援しています。

公式サイト：https://www.lab-kadokawa.com/

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】
株式会社角川アスキー総合研究所　広報担当：堀　press-cp@lab-kadokawa.com